



広報

なぎじん

No. 82

1982年 9月

村章

(毎月1日発行)



▲字謝名で清掃作業

字謝名(祖堅方仙区長)では、8月16日午後2時から、子供会、婦人会、老人クラブなど区民約60人が参加して、部落内(診療所通り)の清掃を行った。

清掃は字内の美化と併せて、お年寄の智恵で子供たちにカマや作業道具の使い方を教えようという一挙両得をねらったもの。参加した子供たちは、慣れない手つきながらも、一生懸命ホーキやカマを使い清掃に汗を流していた。

今帰仁村の人口(昭和57年7月31日現在)

9,912人(+3)

()内は前月比



5,016人(+2)

4,896人(+1)

世帯数 2,791戸(0)

編集発行：今帰仁村役場総務課秘書広報係
〒905-04 沖縄県今帰仁村字仲宗根219 電話098056-2101
印刷：沖縄高速印刷株式会社
南風原町字兼城577 電話0988-89-5513

今月の主な内容

- 二・三 十六字で実施
― 村を考える懇談会
各字の問題が浮き彫りに
- 四・五 盛大に開催された
第3回今帰仁まつり
- 六・七 上昇する高額療養費
- 八・九 今帰仁村の
村落(字)変遷(中)
- 十 五五年国調から
都市化する産業構成
- 十一 六人が中央大会へ派遣
冲青協体育大会で
村青協優勝

一六字で実施 村を考える懇談会

各字の問題点が浮き彫りに

渡喜仁

前回に引き続き、今回は七月十九日から八月四日までに行われた渡喜仁、上運天、与那嶺、運天、諸志、崎山、玉城の懇談会の模様を紹介いたします。
なお、前回同様他の字と重複するもの、また紙面構成上割愛させていただいたものもありますので、ご了承をお願いいたします。残りの兼次、古宇利、天底については次号で紹介いたします。



▲字渡喜仁懇談会風景

※集落センター建設について
○集落センターについては、財政の関係で困難な時期にきています。しかし、構造改善モデル事業で特認事業として計画中であります。敷地については独自で獲得してもらいたい。
※保険税が高いとの声があるがどうなっているか
○年々医療費が上昇する為であり、また高額療養費が多いためである。
※ウツパマの環境美化の立看板の設置について
○要望どおり実施する。

○これまで推せん制と人口を勘案した採用もあったが、試験制度を五十一年度から実施し、村民全体に機会を与えている。
※国体会場について
○村はホッケー会場になっていく。村としてはリゾートステーションを買戻し、スポーツ公園として整備してやる必要がある。

上運天

※大川、親川原一帯の利用計画について
○同地は、港湾関連の企業や農場産業の立地場所として、農振農用地から除外してある。従って土地改良等は困難である。
※運天仲宗根線の改良について
○村道改良事業として、六十二年度までに整備する計画である。青少年のスポーツは活発になっているが文化面の計画について

運天

運天港新設に関して
※売店前のクワディーサーの撤去について
○全面的に残していく計画である。
※民家のヒビ割れについて
○土木事務所調査は、必ずしもパイルを打ったものとは言い難いという報告がされている。村からも県に申し入れてあり、補償については協議中。
※舟揚場までの補装について
○村道になっていないので、二級、その他の路線として見直して実施したい。
※白間入口の道路の整備
○現在の予算を検討し、改修にあたりたい。今年度の予算で

与那嶺

※カーブミラーの設置について
○補助事業ではできないが、村単独で調査し計画をしていきたい。県道については県と調整したい。
※今帰仁中央線の整備について
○崎山と与那嶺までの六百メートルは、五十七年度予算で実施する計画である。

諸志

※貯水タンクへの道路の買い上げについて
○他の集落にも数多くあり、買い上げは困難である。
※諸志村屋敷内の大井戸近くの排水整備について
○現段階で計画していないが、次の段階で検討していきたい。
※北港原から佐田安原に続く道路の安全柵の設置について
○五十八年度村単独事業で実施したい。

※金城三郎氏宅前の屋敷の土手の撤去について
○字で木を切り、車やタイヤジャボは村が提供したい。
※棚原カナ氏宅前と与那嶺甚吉氏宅前のカーブミラーの設置
○実施していきたい。
※土地改良区内の排水の設置について
○土地改良区で検討してもらいたい。
※スリップス、はりがね虫、あ

懇談会実施日・参加者

月日	字名	参加(村役場)	参加(字)
7月19日	渡喜仁	村長、助役、企画財政課長、税務課長、住民課長、厚生課長、経済課長、水道課長、建設課長、農政係長、秘書広報係長	46人
7月21日	上運天	村長、助役、教育長、企画財政課長、建設課長、水道課長、税務課長、住民課長、厚生課長、農政係長	42人
7月23日	与那嶺	助役、水道課長、住民課長、税務課長、厚生課長、経済課長、建設課長、農政係長	45人
7月26日	運天	村長、助役、教育長、住民課長、厚生課長、税務課長、経済課長、水道課長、建設課長、企画財政課長、農政係長、秘書広報係長	42人
7月28日	諸志	村長、助役、教育長、建設課長、水道課長、経済課長、厚生課長、住民課長、企画財政課長、税務課長、農政係長	26人
8月3日	崎山	村長、助役、収入役、教育長、衛生係長、水道課長、住民課長、税務課長、経済課長、企画財政課長、農政係長、秘書広報係長	46人
8月4日	玉城	村長、助役、教育長、厚生課長、住民課長、税務課長、経済課長、水道課長、企画財政課長、建設課長、秘書広報係長	30人

崎山

おどろがね虫の防除について
○スリップスについては薬を村から配布済み。他については独自で防除してもらいたい。
※悪臭公害について
○保健所から係を呼んで行政指導を実施する。
※宇佐浜入口から海浜間の道路、公民館裏から仲尾次境界線までの道路改修について
○二カ年の事業計画で、六十一、六十二年で計画実施したい。
※農業用水のボーリングについて
○本格的に実施する場合は、基

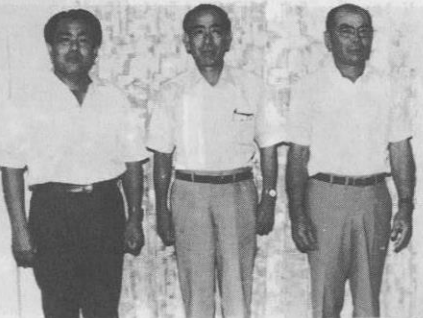
玉城

盤整備事業でやる必要がある。
※ガイダー防除を年二回行うことはできないか
○二回やりたいという要望があればできると思う。方法については検討したい。
※大井川上流の河川の護岸及び浚渫について
○県に要請済
※謝名玉城線の拡張工事について
○村の単独事業で謝名から始っており、玉城区内五十八年度、残りの上原の農道までは五十九年度に施工。

一票が築く豊かなくらし

九月十九日は村議員選挙の投票日です

今帰仁村議会議員選挙の投票日は九月十九日(日)です。
投票できる人は(基準日九月十一日)
●昭和三十七年九月二十日以前に出生した方
●昭和五十七年六月十一日までに住民基本台帳に登録され、かつ投票日現在居住している方
◎名簿の縦覧
九月十二・十三日(選挙のたがめ十四日)二十日までは閲覧ができません)
◎日程
告示—九月十二日
立候補届出—九月十二日・十三日
投票—九月十九日
開票—九月二十日午前八時半



任以来十二年間、高良氏は一九六八年就任以来十四年間にわたる補充員として活躍されました。感謝状を贈られた左から高良氏・池原氏・嘉陽氏

村選挙管理委員としてご尽力され、さる六月三十日で任期満了となった嘉陽宗三氏(字湧川 嘉陽・池原・高良の三氏)

村選管より表彰

九月十五日は敬老の日
敬老会・午後二時・役場ホールにて
村内に住む七十五歳以上の方々を対象にした、村主催による「昭和五十七年度敬老会」が、九月十五日、午後二時から役場ホールで行われます。
これは、長年社会に貢献してこられたお年寄の労をねぎらい、ともに長寿をお祝いしようというもので、沢山の記念品や余興が予定されています。おさそいあわせでご来場下さい。
なお、村内の百歳以上の方、及び今年白寿を迎える方は次のとおりです。
※百歳以上の方(二人)
●上間タマ(百二歳、今泊三〇八四)
●上間カナ(百歳、崎山三八四)
※白寿を迎えた方(四人)
●嘉陽マツ(呉我山二二)
●仲本カマド(呉我山四〇一)
●神山カナ(勢理客四七九)
●喜屋武力ナ(上運天八九三)
※米寿を迎える方
村内で三十一人



▲総合展示会

▶若い二人のウェディングケーキ(総合展示会場にて)



◀婦人会・老人クラブによる盆おどり



◀若い人の心を酔わせたダンスの夕べ



▶沖縄角力大会



▶闘牛大会



▲日頃鍛えたノドを披露(素人のど自慢大会)



写真特集

盛大に開催された

第3回 今帰仁村まつり

盆おどり・花火に会場うまる

▶松田実行委員長(中)らによるパレード

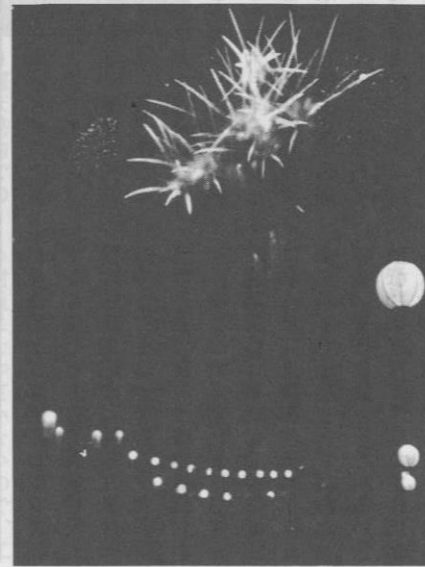


村社会福祉協議会へ寄附した。

第二回今帰仁村まつり(実行委員長・松田幸福村長)が、八月二二日の両日、役場西広場を中心に盛大に行われた。村まつりは、村民が一堂に会し楽しむことにより、融和を深め、ひいては文化や産業の発展に役立てようというもの。一日間で一万数千人が参加した。初日の一時から開会式があり、次いで今帰仁小のバトンカール、鼓笛隊を先頭に、役場前から今帰仁給油所までのパレードが行われた。期待の闘牛、沖縄角力大会は晴天の下で熱戦が展開。役場ホールでのダンスの夕べ、中央公民館での総合展示会、野菜即売会にも人気が集まった。

一日目は、フオーク&腹話術の集い、手品ショー、盆おどり、素人のど自慢大会が行われ、フィナーレを飾る五〇発の打ち上げ花火がまつりを最高潮に盛り上げてくれた。また、おぼけ屋敷には一日間で千数百人の子ども達が入場する盛況ぶりだった。なお、おぼけ屋敷を担当した商工会青年部(金良宗幸部長)では、純益金八万円を十割一日役場で)

◀まつりを最大に盛り上げた花火



長蛇の列を作ったおぼけ屋敷(写真右)とおぼけ屋敷の純益金八万円を村社協に寄附する金良商工会青年部長ら(写真左、八月二五日役場で)



▶フオークと腹話術の集い



先月号の国保のしくみに続いて今月号では、入院、入院外、歯科、調剤及び高額療養費についてお知らせします。

村の国保の被保険者数は55年度6,815人に対し56年度は6,497人と318人減少しています。ところが総医療費は423,922,550円に対し450,375,077円と6.24%上昇しております。高額療養費は55年度625件29,657,379円に対し56年度は852件33,545,634円と13.1%の上昇になっています。各字別の被保険者数と比較して、各区分毎の医療費の状況、又受診率の高低も比較してみましょう。

高額療養費は自己負担の最高限度額39,000円を超えた分について支払いした金額が33,545,634円、高額療養費の総医療費は222,649,000円で国保全体の49.4%に当たります。このように国保の相互扶助により852件の高額療養者が恩恵を受けたこととなります。

高額療養費は病気が重症化、長期化することによって増加します。私達が健康で明るい生活を営むためにも常に健康の保持増進に努め、村が実施するコンピュータドックや集団検診を受け、病気の早期発見、早期治療を行ない病気の長期化、重症化を防ぎましょう。

また医療費の約25%は保険税でまかなわれ、病院へ支払う医療費は「待ったなし」です。保険税は100%納付していただかないと、国保事業は運営困難になります。保険税は納期限内に納めるようにしましょう。

療養費 49.4%

国保全体の

上昇する

高額



昭和56年度入院、入院外、歯科、調剤の

字名	被保険者数	入院		入件数
		件数	費用額	
今泊	696	113	18,198,370	2,332
兼次	211	61	10,677,290	659
諸志	271	48	6,952,170	880
与那嶺	227	59	9,917,920	878
仲尾次	163	43	7,461,170	627
崎山	226	51	8,708,570	797
平敷	246	23	3,463,320	708
越地	222	56	9,660,550	686
謝名	338	145	22,781,340	1,014
仲宗根	852	113	21,990,290	2,472
玉城	301	62	12,445,650	988
呉我山	172	17	2,045,530	363
湧川	743	194	44,944,160	1,943
天底	489	74	14,490,890	1,396
勢理客	144	21	3,821,240	469
渡喜仁	319	41	7,832,320	933
上運天	230	82	15,095,270	931
運天	258	52	10,052,950	975
古宇利	389	0	12,885,780	1,233
合計	6,497	1,305	243,424,780	20,284

件数、費用及び高額療養費支給額

院外	費用額	件数	歯科		計	受診率	調剤		療養費		高額療養費	
			費用額	件数			件数	費用額	件数	費用額	件数	費支給額
17,001,010	307	2,131,400	2,752	37,330,780	395,402	219	664,978	53	442,368	74	1,797,246	
4,652,230	101	847,610	821	16,177,130	389,099	105	469,888	17	75,880	35	812,172	
6,137,890	105	812,950	1,033	13,903,010	381,181	149	775,400	9	62,010	26	536,192	
6,332,410	107	1,014,810	1,044	17,265,140	459,912	124	724,900	10	53,572	32	1,138,464	
4,923,860	87	609,550	757	12,994,580	464,417	142	853,560	26	145,866	36	821,776	
5,460,040	98	585,940	946	14,754,550	418,584	205	962,150	7	20,844	35	1,355,497	
5,389,000	100	898,530	831	9,750,850	337,805	173	715,636	6	47,430	14	578,862	
5,971,590	123	898,610	865	16,482,750	389,640	95	622,560	6	18,426	46	720,822	
6,874,960	152	1,148,550	1,311	30,804,850	387,869	170	651,094	7	34,272	91	1,310,727	
20,520,670	463	3,470,510	3,048	45,981,470	357,746	428	1,709,966	12	61,755	53	3,322,638	
7,646,070	160	1,228,970	1,210	21,320,690	401,993	268	1,320,410	24	213,774	37	1,090,700	
2,988,320	100	889,680	480	5,923,530	279,069	70	235,500	94	553,320	7	181,290	
14,125,770	320	2,556,050	2,457	61,625,980	330,686	596	2,404,498	27	440,630	150	7,311,750	
11,053,370	278	2,074,210	1,748	27,618,470	354,464	366	1,624,798	12	64,678	34	2,041,794	
4,151,120	82	550,290	572	8,522,650	397,222	110	467,250	4	55,158	10	438,186	
7,449,200	144	1,174,740	1,118	16,456,260	350,470	168	585,080	2	38,860	31	2,235,795	
6,935,820	106	770,990	1,119	22,802,080	486,522	156	694,260	2	37,930	54	2,364,078	
8,919,880	95	744,120	1,122	19,716,950	434,884	222	1,104,640	2	5,520	33	2,232,443	
16,664,480	116	998,850	1,399	30,549,110	359,640	303	1,277,808	10	157,578	54	3,255,198	
163,197,690	3,044	23,358,360	24,633	429,980,830	379,144	4,069	17,864,376	330	2,529,871	852	33,545,634	

なぜ年金が必要か？

夏の間セッセツとたくわえをしたアリは、働けないきびしい冬には暖かい生活を送りました。それにひきかえ、キリギリスは、夏の間楽しみばかり追い求め、たくわえをしなかったため、冬になると大変不幸でじめな生活を送りました。これはおなじみのイソップ物語の中の話ですが、年金にはよくあてはまるたとえ話です。

国民年金の保険料を納めた方は豊かな老後を楽しむことができますし、未納した方はじめな老後を送るおそれがあります。ですから国民年金の保険料は家計簿の中の生活費目に入れましよう。

国民年金は大丈夫です！！

私たちは、一人ひとり何らかの力を出し合い、助け合って社会を形づくっています。ですから、社会の中で生活を送るということは、助け合いの輪の中に組みこまれていると言えるでしょう。

国民年金制度は、国が責任をもって自営業者を強制的に加入させ、保険料を納めさせ、将来、としをとった病いやけがで生活が苦しくなった時、年金を支給し、生活を安定させようという制度です。つまり国民を家族にみだてて、家族同志が助け合っていることと

同じもので国民生活の血となり肉となるのです。ですから国民年金の保険料は家計簿の中の生活費目に入れましよう。

国民年金は助け合いの制度

保険料は家計簿の生活費に入れましよう

どうして保険料は上るか？

おとしよりや、夫をなくし子年金を約束しています。つまり、物価が5%上がれば、年金も自動的に引き上げられることにな

うすることもできません。それで国民年金制度では、経済事情が変っても生活が安定するように、その時々物価に見合った年金を約束しています。つまり、物価が5%上がれば、年金も自動的に引き上げられることにな

保険料が出せないときは？

みんなで納める保険料が、社会で弱い立場にある方々の生活を支えているのです。ですから国民年金の保険料は家計簿の中の生活費目に入れましよう。

保険料が引き上げられて負担するのが困難な方には、保険料を免除して年金を支給する道があります。このような方々は、村役場年金係でご相談下さい。

島津侵入表記法にも影響

今帰仁村の村落(字)変遷(中)

琉球国高究帳

今帰仁村の村落(字)名が、まとまって出てくるのが、「琉球国高究帳」(以下「国高究帳」とする)からである。その編集年代は、明らかでないが一六三〇年から四〇年代にかけてとみられる。それには、沖縄本島と回りの七島の間切・島の合高や村高を記し、さらに田方と島方に分けて記してある。また、石高の下に間切における村落を、「三村」としてある。

今帰仁間切のところに、「今帰仁間切式拾三ヶ村」とある。前回の「今帰仁村の村落(字)変遷」表で省略した村落も入れると次の通りである。

ひし村	ごが村
具志賢村	ふれけな村
今帰仁村	まつた村
(よなみな村)	運天村
(しゆきたち村)	沖之郡島
へしき村	
(崎山村)	
中城村	

一村として認められているからである。さらに、石高からおし面積が狭いからとするのではない。そこには、当時の行政的村落の形態があつて、その不完全な形として表われたのが、このように両村を一村として数える方法をとつたとみるべきであろう。

前回、「おもろ」や「辞令書」でみたように、主にひらがな表記で記されていた。「国高究帳」の村落の表記法をみると、次の通りである。

「琉球国高究帳」の村落表記

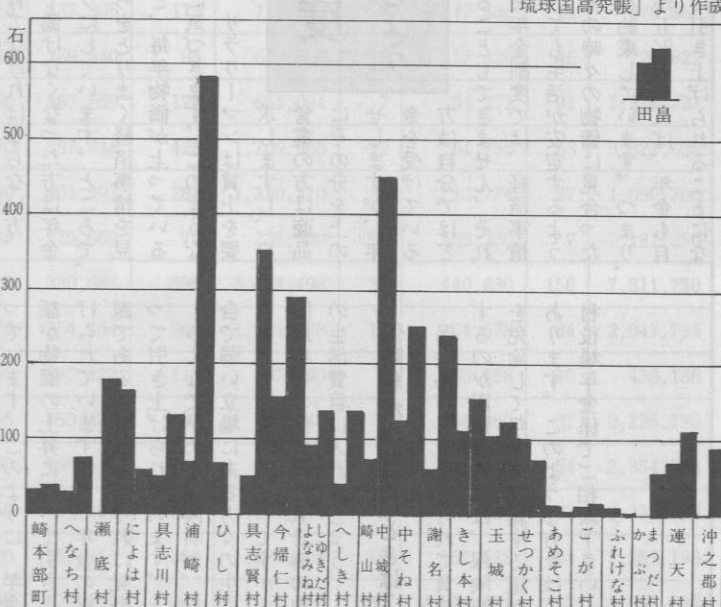
村数計	全体	今帰仁
表記法	371 (2)	26
ひらがな	129 (35%)	12 (46%)
ひらがな+漢字	15 (4%)	2 (8%)
漢字	225 (61%)	12 (46%)

◎全体の村数371の内欠村2である。

「国高究帳」全体を通してみると、村数三七一(内欠村二)のうち、ひらがな表記が三五パーセント、ひらがな+漢字表記が四パーセント、漢字表記が六パーセントの割合になつてい

る。この「国高究帳」が、琉球

今帰仁間切各村の石高

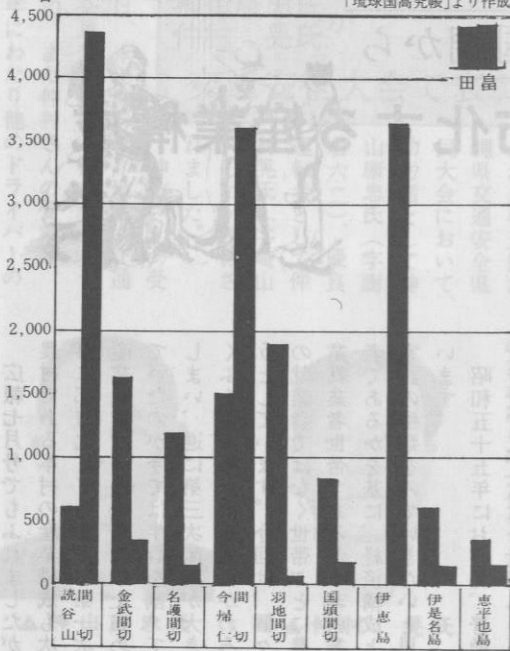


本部間切の設置

本部間切の分割設置について、「球陽」の尚質王十九年の条は、今帰仁郡邑は、素、三拾余邑有り。田地甚だ広く、人民已に多し。今、其十一邑を分ちて、伊野波郡と為し、始めて向弘信(本部王子朝幸)・毛泰永(伊野波親方盛紀)に賜ふ。後亦、七邑を新設し、以て本部郡に属す。共計十九邑なり。翌年に至り、本部郡と改名す。

北部の間切・島の石高

「琉球国高究帳」より作成



と記している。この記事からすると、一六六六年に今帰仁間切(郡)の村(邑)数は、三十余りある。その内十一村を分けて伊野波間切とし、翌六七年に本部間切と改名している。本部間切は、新設した七村を加えて十九村と

- 新設間切(郡) 新設村(邑)
- 本部 (一六六六年) ……七
 - 美里 (一六六六年) ……一
 - 宜野湾 (一六七一年) ……一
 - 恩納 (一六七三年) ……一
 - 大宜味 (一六七三年) ……四
 - 小禄 (一六七三年) ……四

村高が増える場合、間切の新設がひとつある。次における新設間切のほとんどが、新村落を形成している。

それらの間切の新設理由は、田高が広すぎる、人口が多すぎることをあげている。ここにあげた八間切の新設は、与那城間切を除いて、向象賢(羽地朝秀)攝政在任(一六六六―七五年)の時代であり、それは首里王府の政策がみごとに反映したものと

琉球国由来記・旧記

「国高究帳」が、田島から生産される石高を示し、村落の生産的側面をみせてくれる。それに対し、「琉球国由来記」・「琉球国旧記」(以下「由来記」・「旧記」とする)は、年中行事・御嶽・神名・発祀などをおりこんで編集されており、祭祀の側面から村落の形態をうかがわしめる。

「由来記」・「旧記」に出てくる村落は、そのほとんどが現在の村落と結びついてくる。それらに表われた村落を古村と呼び、その後設置された村落を新村、新設村、屋取村落などと呼ばれることがある。

「由来記」では、「間切」・「村」・「旧記」では、「郡」・「邑」が使われている。「国高究帳」とは違い、村落名は全て漢字が当てられ、現在の村落名の漢字表記と一致するところが多い。今帰仁間切であれば、仲宗根が中宗根、平敷が平識(敷)、古宇利が郡となつていくらしいの

- 今帰仁間切
- 親泊村
 - 今帰仁村
 - 兼次村
 - 諸喜田村
- 謝名村
- 中宗根村
 - 寒水村
 - 玉城村

- 志慶真村
- 岸本村
 - 与那嶺村
 - 勢理客村
 - 中城村
 - 上運天村
 - 中尾次村
 - 運天村
 - 崎山村
 - 郡村
 - 平識村
 - (天底村)

「由来記」と「旧記」に、「中城村(邑)」と「中尾次村(邑)」が出てくる。火神のところで「中城村」・御嶽で「中尾次村」と出てくる。また、「旧記」の今帰仁郡(領邑十九座)では、「中城邑」と「中尾次邑」を別村として数えられている。それからすると、両村は、別々の村ではな

いかとも考えられる。しかし、「検地帳」では、兼次を兼城、羽地間切の仲尾次を中城と記してあつたとされることからすると、中城=中尾次とみていい

であろう。天底村は、「由来記」・「旧記」で本部間切の管轄に入っている。「球陽」の尚敬王六年(一七一九年)の条をみると、本部間切天底村を遷して今帰仁間切に入る

記(一七三二年)は、まだ本部間切においたままである。天底村が、本部間切から返還の際、村落の場所移動についての記事はみあたらない。古老の伝えるところによると、本部間切の伊豆味あたりから現在地に移ってきた。祭祀のときは、天底ノロが旧地へ出向きとりはか

註②「沖繩県史料」首里王府設置、前近代I十三頁。

註③「琉球国高究帳」(マイクログループ)名護市史編さん室提供)とは、数字の変動がいくらかある。

註④「球陽」の記事は、球陽研究会の「球陽」(読み下し編)による。

註⑤「琉球国由来記」・「琉球国旧記」は、「琉球史料叢書」を用いた。

註⑥島袋源一郎「国頭郡志」四三頁。東恩納寛惇「南島風土記」全集七六三―五一六頁。

註⑦今帰仁村天底六一―新城氏(九〇歳)からの聞きとり調査による。

村文化財保存調査委員 仲原弘哲

55年国調から 都市化する産業構成



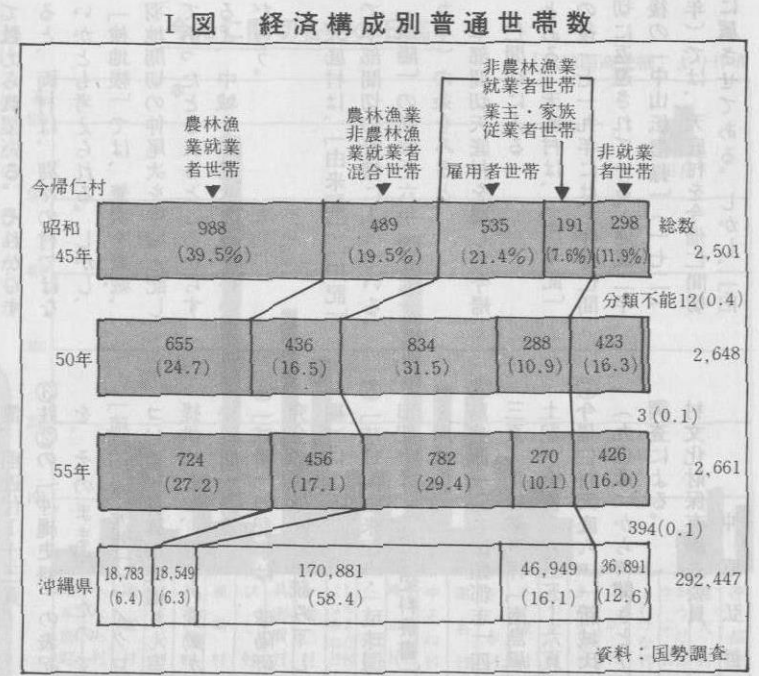
広報七月号でもふれましたが、農村である本村の産業構成も次第に都市化しています。第一次産業就業率が三分の二以上占めていたのが今では半数を割ってしまい、逆に第三次産業が大きくなっていきます。今回は、個々の就業率ではなく世帯ごとに農業就業率世帯であるか、非就業率世帯であるかを基に、経済構成と家計の種類をみていきたいと思います。

昭和五十五年において、普通世帯数が二、六六一世帯ありますが、経済構成はどんな割合となっているのでしょうか。第一図をみると、農林漁業就業率のみ世帯が七二四世帯(二七・二%)、非農林漁業就業率のみ世帯が一、〇五二世帯(三九・五%)、その混合世帯が四五六世帯(十七・一%)、非就業率世帯が四二六世帯(十六%)となっています。十年前の四十五年と比較すると、農林漁業が二六四世帯三・三ポイントの減で、非農林漁業は逆に三二六世帯九・五ポイントの増となっています。産業別就業率と同様、農林漁業と非農林漁業が逆転し、非農林漁業が大幅に追い越していることがわかります。混合世帯と非就業率世帯はそれほど大きな変化はみられません。

県と対比してみると、経済構成に大きな相違があることがわかります。農林漁業で本村が二〇・八ポイントとはるかに高く、非農林漁業では反対に県が二五ポイントも上回っています。また雇用者の割合も、本村が二九・四%に対し県が五八・四%と著しく高くなっています。家計の収入の種類についてもI表でみると経済構成別割合と一致しています。村においては、賃金給料が主な世帯が四十五年三三・三%から五十五年三七・二%と増加し、農業収入が主な世帯三二・三%より高くなっています。県の場合、農業収入が主な世帯は一・一%と極めて低く、賃金・給料が主な世帯が七〇%

家計の収入の種類	昭和45年		55年		55年	
	世帯数	割合	世帯数	割合	世帯数	割合
普通世帯	2,501	100%	2,661		170,380	
賃金、給料が主	783	31.3	990	37.2	114,147	66.9
農業収入が主	1,307	52.2	859	32.2	1,880	1.1
農業以外の事業収入が主			288	10.8	27,353	16.0
内職収入が主	9	0.3	2	0.0	741	0.4
家賃、地代が主	7	0.2	0	0.0	4,581	2.6
利子、配当が主	2	0.0	1	0.0	134	0.0
恩給、年金が主	81	3.2	329	12.3	8,308	4.8
雇用保険が主	2	0.0	4	0.1	1,220	0.7
生活保護が主	134	5.3	111	4.1	3,475	2.0
仕送りが主	176	7.0	55	2.0	4,637	2.7
その他			20	0.7	3,601	2.1

I表 家計の収入の種類別普通世帯数



近くとなっています。本村の恩給・年金が主な世帯が比較的高いのが目につきます。過疎化で老人世帯が多く、I図の非就業率世帯が割合高いのと相応しています。

以上のことから、本村の場合次第に農林漁業が減ってきてはいますが、全体的にみるとまだ非農林漁業(特に雇用者)の割合が少なく、農林漁業のウエイが大い村といえます。しかし四十五年以前に比べると経済構成がだいぶ変はうしてきてい

行った。参加した方は「ゲートボール場は字民の願望であったので、豊里さんとグレイダーを提供した村に感謝しています」と話していた。

六人が中央大会へ派遣 沖青協体育大会で村青協優勝



中央大会へ派遣される選手

七月二十五日行われた沖青協の「第二十六回青年体育大会」の陸上の部において、村青年会チームが男女、総合とも優勝を飾った。なお、本村の次の選手は、十一月に東京国立競技場で行われる中央大会に県代表として派遣される。

- 仲本 満 (百メートル)
- 山城 正樹 (走り高跳)
- 大嶺 敦 (三段跳)
- 新城 満 (千六百リレー)
- 比嘉ひろみ (二百メートル)
- 嘉陽るみ子 (走り中跳)

七月三〇日行われた第五回沖縄県交通安全県民大会において、功労者として神山康忠氏(字謝名六二)、優良運転者として仲村晃氏(字崎山八〇)が表彰されました。

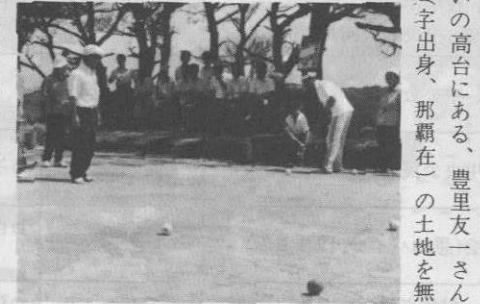
神山康忠氏が 交通安全大会で表彰

賞は、永年にわたり地域の交通安全思想の高揚に努めたという。また仲村さんの受賞は、永年にわたり他のドライバーの



▲神山康忠氏 ▲仲村晃氏

渡喜仁に ゲートボール場完成



字渡喜仁(比嘉才三区長)において、このゲートボール場が完成。七月十三日盛大にゲートボール開きが行われた(写真)場所は、県道名護運天港線沿いの高台にある、豊里友一さん(字出身、那覇在)の土地を無償で提供してもらった。

野球・剣道が優勝 国頭郡球技大会で

八月二日、金武町、恩納村において「第十九回国頭郡球技大会」が行われました。村体協からは、バレー男女、卓球、バスケット男子、テニス、剣道、江戸相撲に選手が派遣されました。その結果、剣道が優勝、女子バレー、江戸相撲が準優勝、テニスが三位に入賞しました。



女子バレーで準優勝した村選手の活躍

ご寄附

村社会福祉協議会には、長崎豪雨見舞金を始め、多くの寄附金が寄せられています。皆様からのご芳志感謝申し上げます。

- ◎長崎豪雨災害救援金
 - 各 宇 233,800円
 - 嶺 井 政 正 20,000円
 - 嶺 井 食 堂 従 業 員 3,000円
 - 大 城 政 美 会 5,709円
 - 区 長 10,000円
 - 大 嶺 竜 也 10,000円
 - 大 仲 原 薫 樹 5,000円
 - 山 城 洋 樹 300円
 - 崎 山 住 民 募 金 9,867円
 - 計 297,676円
- ◎竹富町災害救援金
 - 渡 具 知 良 隆 1,114円
 - 渡 喜 仁 区 9,000円
 - 募 金 箱 (役 場、農 協) 18,589円

- ◎字仲尾次の喜屋武カナさんより米寿祝を記念して30,000円
- ◎村商工会青年部(金良宗幸部長)より村まつりおぼけ屋敷の純益金として80,000円
- ◎那覇市寄宮2-30-2の沢岷浩子氏より故沢岷安永氏の香典返しとして100,000円の寄附が村育英会にありました。

なきじん版

9月1日～10月2日

村民カレンダー



9/1 水	○心配ごと相談 (13:00、中央公民館)	17 金	○中央婦人学級 (14:00、中央公民館)
2 木		18 土	
3 金		19 日	○村議会議員選挙投票日
4 土		20 月	○村議会議員選挙開票 (8:30、役場ホール)
5 日		21 火	○区長会 (14:00、役場ホール) ○住民検診 (9:30～16:00、今泊)
6 月	○区長会 (14:00、役場ホール) ○陸上競技大会要項説明会 (区長会にて)	22 水	○住民検診 (9:30～12:00、兼次、13:30～16:00、諸志) ○心配ごと相談 (13:00、中央公民館) ○公民館運営審議委員会 (10:00、中央公民館)
7 火	○家庭教育学級 (14:00、天底小)	23 木	○秋分の日 ○今帰仁中運動会
8 水	○三歳児健診 (13:00、役場ホール) ○心配ごと相談 (13:00、中央公民館)	24 金	○住民検診 (9:30～12:00、与那嶺、 13:30～16:00、仲尾次)
9 木	○高齢者教室 (14:00、中央公民館)	25 土	
10 金	○人権相談 (10:00、中央公民館)	26 日	○子豚セリ市 (13:00、家畜セリ市場)
11 土	○村婦人リーダー研修会(恩納ハイツ、12日まで)	27 月	○住民検診 (9:30～12:00、崎山、 13:30～16:00、平敷)
12 日	○陸上記録会 (13:00、村営グラウンド) ○村議会議員選挙告示	28 火	○住民検診 (9:30～12:00、謝名、 13:30～16:00、越地)
13 月	○体育指導員会 (18:00、中央公民館)	29 水	○心配ごと相談 (13:00、中央公民館) ○社会教育懇談会 (14:00、中央公民館) ○DPT子防接種 (13:00～14:00、役場ホール)
14 火		30 木	○住民検診 (9:30～12:00、役場職員、 13:30～16:00、仲宗根) ○高齢者教室 (14:00、中央公民館)
15 水	○敬老の日 ○敬老会 (14:00、役場ホール)	10/1 金	○住民検診 (9:30～12:00、玉城、 13:30～16:00、呉我山)
16 木	○肉用牛セリ市 (12:00、家畜セリ市場)	2 土	

編集後記



■九月・長月、別名夜長月とも
 います。日増しに秋の気配が
 深まる様子が伺えます。沖縄で
 も日中の日差しは依然と厳しい
 ものがありますが、夕暮れの海
 辺、明けの風の音にしみじみ秋
 の訪れを感じる今日この頃です。
 ■第三回村まつりは天気恵ま
 れたこともあって、盛況のうち
 に幕を閉じました。ご協力いた
 だいた村民の皆様へ感謝します。
 ■ところで、まつりを支える裏
 方さんの努力も忘れてはならな
 いところ。特に商工会青年部や
 役場職員は準備から片付けまで
 延べ十日間もつきっきり。その
 情熱の中から「おぼけ屋敷」の
 ようなヒット作が生まれました。
 ■さらに特筆したいのは、商工
 会青年部がその純益を全額社協
 に寄附したこと。出来そうであ
 りない行為ではないでしょうか。
 ■都合により、若き後継者たち
 は休ませていただきます。また、
 「村民コーナー」私の一言」に皆
 様の意見・要望をお寄せ下さい。